

R.U 司法試験準備

北海道大学大学院

法学研究科卒

○法科大学院生活の振り返り

とんでもないところに来てしまったな、と感じた。法科大学院既修課程入学後自分自身の法律に対する理解や知識のレベルは明らかに他の学生と比べて不足していた。そして、法科大学院の授業では大学の授業と比べて、教授や講師が学生に対して発言を促す機会がとても多く、そのことは実力不足を感じていた自分にとって精神的なストレスであった。そのため、とにかく授業の準備をすること、そして心折れずに授業に出続けることを目標として過ごしていた。もしかすると、高い志を持って精進する素晴らしい学生像とはかけ離れていたかもしれないが、難しい・分からない・情けないといった生々しい現実と対面することは自分自身の肥やしになっていくはずだと今になって思う。また自信が持てない時期に教授や周りの学生からかけられたお褒めの言葉は未だに覚えているし自分にとって大きな支えとなった。自分自身周りの人の良いところは積極的にその人に伝えていきたいと思う。その人の支えになるかもしれないので。

自信が持てない自分の転機となったのは、1年目の秋にきた「法科大学院の既修課程に落ちてしまった」という水泳部の後輩からの連絡だった。その日から毎日一緒に勉強するようになり、昨日も一緒に司法試験の過去問を解いた。人と一緒に勉強することのメリットは、サボれないだけでなく、人に自分の理解を伝えるということがそのまま試験の答案に反映されるということだと思う。この2年間ほぼ毎日後輩と会話をして、お互いに伝える努力をしてきた。自分自身、今年の司法試験は短答の憲法が1点足りず不合格に終わったので、来年の受験がある。後輩も来年受験するので、来年は2人で合格出来たら良いと思う。

○これからについて

まずは司法試験に合格することが第1目標である。肝心の司法試験に合格した後どうしたいのかについては長年の自分自身の課題であったが、今のところJAXAの事務系職員の採用試験と法律事務所の採用試験を受けようと考えている。後者については一般的な司法試験合格者の進路であるが、前者については単純な自分の興味である。正直なところ典型的な法律問題に対してあまり関心が沸かないというか考えていて疲れてしまうような感覚がある。昨今同性婚を認めないことに関する憲法訴訟等が行われているが、そこに対して賛成でも反対でもなく、自分自身注力できない。今日我々が語る多様性は誰でも受け入れる代わりに誰をも不安にさせるものだと思う。広げられた大風呂敷の中で皆自分と価値観が合う人を探す、多様性で学び同一性に落ち着く。それが健全なものなのかどうか自信が持てない私は、多様性という概念を正義だと信じてやまない人の中では心身ともに健やかに過ごせそうにない。いつかのレポートにも書いたかもしれないが、私は今の時代を社会的思春期だと捉えている。体の成長が緩やかになり自分の身の丈に気づき始めたころ、今まで考えてこなかったようなことをグルグル考えてしまうように、科学技術の進歩が進み成長が緩やかになってきた今日であるからこそ、多様性やコンプライアンスについて必要以上に考えてしまっているような気がする。ではそんなことまで考えるほど余裕があるのかというと、現実では8月末の台風10号

で私の家は停電が 1 日半続き、関西では米不足が起き、日本や世界各地で災害による犠牲者はなくならない。少数者と多数者に分かれる分野ではなく、皆必要としている安心安全な暮らしのために出来ることはまだまだあるような気がする。概念的観念的で答えがどこにあるのか分からないようなところではなく、まっすぐ夢に向かって成長できるような世界で生きていく。これが自分の軸でありその最たるものが宇宙事業です。魅力的なものです。JAXAと共同開発しているような大企業だけでなく、中小企業等も宇宙事業に身を乗り出していくこれからの社会にとって、スペースデブリ等法律問題を生じさせる要因は沢山あり、間違いなく宇宙法務はこれから成長の必要に迫られる分野であると確信しています。私はいま国際私法を勉強していますが、宇宙法務には国際公法の知識も必須となります。やるべきことをしっかりやって、少しでも自分が魅力を感じる分野に近づいていけたらと思います。

○総括

ここまで大きな夢について書いてきた。もっとも、自分がその夢に向かってまっすぐに生きているかということとそんなこともない。というのも、よく夢や目標に向かって逆算的に今何をやるべきか考えるということを目にするが、自分はその考えにあまり共感できないからだ。この前大学・大学院生活を過ごした北海道で飲酒運転事故に巻き込まれ大学院生が亡くなるというニュースを見た。その方が自分と同じ大学で勉強していた方か定かではないが、なぜか身近なニュースに感じた。自分だっていつそういうことに出くわすかわからない。長期的な逆算思考は一見現実的であるが、時間は不可逆であり命は 1 つ不安定なところに置かれているという無視できない現実と相性がよくないように思う。法律を学び自分が望む仕事がしたいという立派な思い、趣味である筋トレやケーキ作りを楽しみたいという思い、どちらも大切にすることが人生を大切にするというような気がする。未来からひっぱってもらうのではなく、現在から大きな力で楽しみながら歩いて行く。どこに行き着くかは分からなくてもいい。そのような考えで今やるべき事とやりたい事を楽しんでいきたい。ロケットは最初の爆発に大きなエネルギーを使い、あとは軌道に乗るだけである。私もそうでありたい。あらゆる議論に対して「価値観の違い」というマジックワードはつきものであるが、自分が主張するその価値観に対してどれだけ真摯であるのか人は他人からそして自分自身から問われ続けているような気がするのです。